



校(地)区社協の活動事例

@地域福祉推進委員研修会

～地域福祉活動に協力してくれる方の確保～

各校(地)区社協で行っている様々な形の「ふれあい活動(校区内の見守り対象者への見守り合い・話し合い・助け合い活動)」ですが、大分市社協では、これらの地域福祉活動に関わってくれる「担い手」が足りない…という声を活動者の方々からよく聞いております。

こうした声を受け、地域福祉活動に協力してくれる方(担い手)をどのように集めて、どのように運営・展開しているのかを知ることをテーマに、令和元年12月2日に地域福祉推進委員の研修会を行いました。この研修会では、校(地)区社協が実際に行っている活動を春日校区社協、竹中校区社協の地域福祉推進委員さんに発表していただきました。また、大分県内で先進的取組を行っている中津市山国地区の取組みについて中津市社会福祉協議会から発表していただきました。

当日は、地域福祉推進委員をはじめ、校(地)区社協の会長、事務局長、民児協会長など123名の方に参加していただきました。今回のふくしの風では、発表していただいた内容の概要をお伝えします。

春日校区社協と
竹中校区社協の
活動発表をしていただきました

※地域福祉推進委員とは・・・

ふれあい活動(小地域福祉ネットワーク活動)の推進を目的に市社協会長が校(地)区社協ごとに委嘱している方々です。

春日校区社協 寺子屋かすが

～事業概要～

- 夏休みの6日間(午前中)、小学4～6年生の子どもたちに学習の場所を提供。平成21年から開始。
- 令和元年は618人(延べ)が参加。
- きょうだいがいる場合は1～3年生でも同行可。
- 校区内の公民館やお寺を使用(6か所)
- 見守りや質問対応を地域のボランティア中心に対応。総勢70名の方に協力してもらっています。
- 寺子屋の基本方針
子どもたちへ学習する場所を提供する
あくまでも自主学習 子どもの自立心を育てる



- 目的(テーマ)に沿って協力者を募集することで、引き受けてくれる方が多いようです。(依頼しやすい、引き受けやすい)
- 11年目になりました。子どもたちと春日校区のつながりをつくる基盤となっています。



研修会参加者からの感想や質問など(一部抜粋)

- ◆地域のつながりづくり、の視点
「困難な活動だ」と思いますが、思い切ってやっていることに感動を覚ると共にエールを送ります。課題には少しずつクリアしていってもらえたらと思います。
- ◆地域の人材に関する事など
寺子屋の基本方針は、子どもの自立心を育てるには良い事ですね。連日6日間も開いているというのには驚きでボランティアさんの苦勞が目に見えるようです。この取組みが続くように！
地域福祉推進はボランティアの組織作りが大切。急務だと感じる。
- ◆学校はどのように考えているのかな？地域任せではなく、連携する必要があるのでは。
《回答》寺子屋かすがに参加する子どもの募集(申し込み)を、春日町小学校に行ってもらい、参加を希望する子どもたちの情報(名前、学年等)をとりまとめの上、校区社協に提供していただいています。また、寺子屋かすがの当日も、先生方が周回して子どもに声かけして下さるなど、連携を図っています。このような事業を行う上では、学校と連携をすることがとても大事だと考えています。

竹中校区社協 ゴキブリ団子を通じた担い手の発掘

～事業概要～

①ゴキブリ団子づくり

既存の取り組みのひとつ「ゴキブリ団子の作成・配布」に多くの方に関わってもらえるように、住民や竹中校区内のケアマンションなどに協力依頼。今まで15名程度で行っていた団子づくりが、今年は30名の参加となりました。

②団子配布を切り口に、住民にアンケート実施

ゴキブリ団子の全世帯配布に併せて、生活の困りごとや困りごと支援の可否などのアンケートを実施。結果からは「何かできることがあればする」という人も多数いる一方で、「個人情報の取扱い」等の不安材料もあることが明らかになってきました。



- ・既存の活動を活かしながら、活動の周知と担い手の確保を同時に行っています。
- ・竹中校区の中で、どのように住民同士で助け合いができるかを、全世帯を対象に投げかけ試行錯誤しています。

研修会参加者からの感想や質問など（一部抜粋）

◆身近な活動からの人材発掘のながれが Good!

- ・集まる活動をきっかけに、人づくりを進める一つの例だと思う。
- ・繋がり材料は身近にあることを学ぶ。

◆「みんな」ですること

- ・皆が集まって何かをする、その中で必ず、一人一人の間で話がされる。これが大切なことである。そして、必ず何かをしようかという話題が得てくると思う。考える前にまず動くこと。

◆アンケート調査の実施について

- ・素直な取り組みの感想で好感が持てました。私たちも頑張れそうです。取り組みの手法（アンケート）が良かった！モデル地区を作って引っ張って行けば徐々に良くなる・・・必ず！

◆「ゴキブリ団子」にした理由は？

《回答》活動計画の話し合いメンバーに「ゴキブリ団子配布活動」の中心メンバーの方もいたことで、ゴキブリ団子配布活動の話にも至り、結果、このような取り組みに至りました。ただ、新しいことをはじめるだけでなく、既存の取り組みを活かして何かできないかというコンセプトがあつたことで、「ゴキブリ団子」そのものにこだわったわけではありません。

中津市山国地区(中津市社協) 地域力～人財・話し合う・学び合う・お互いを知る・支え合う～

～事業概要～

- ・地域住民どうして顔をあわせて話し合い、お互いを知る場として地域福祉ネットワーク協議会を構築中です。
- ・「お宝探し塾」として、住んでいる地域の良いところ（お宝）を参加者で再発見し、共有する取り組みをしています。
- ・高齢者の閉じこもり予防、特にひとり暮らしの方の孤独感を解消したい（孤食の解消）、社会福祉法人の地域貢献活動を広げたい、などの背景があり、「人のつながり応援事業」をモデル的に山国地区内で実施中。社協の車（デイサービスの車両）を活用して、運転ボランティアを養成。一人暮らしの方などを対象に、月1回の集いの場「よりあ」への送迎から始めています。



研修会参加者からの感想や質問など（一部抜粋）

◆お宝さがし・人財

- ・「お宝さがし」の取り組みは参考になる。
- ・ハードルを下げるという考えは参考になりました。

◆高齢者のひきこもり防止、移動援助からスタートされているとの話。高齢者全員が取り組める各人の能力を生かせる行事はないでしょうか？

《回答》行事から考えるのではなく、まずは一人からでも何か特技のある人を生かせる場をどのように作るかを考えることが、布石となるのではないのでしょうか？「高齢者の方々の能力を上手に活かしている地区」に共通しているのは、地域の中に、それぞれの住民の方の能力をしっかり把握する人がいて、いろいろな場面につなげられている（コーディネートできている）点です。これは社協の職員というより、住民の人がやることに大きな意味があると思っています。住民同士がお互いのいいところを認め合う気風にもつながります。

大分市社協では、それぞれの地域の実際の取り組みを通じて、良かったことや苦労していることなどの情報交換を引き続き行っていきます。皆様の活動の参考にさせていただければ幸いです。

【お問い合わせ先】大分市社協 地域福祉課 地域福祉係
☎547-7418・メール tfukusi@oita-syakyo.jp